

新丸山ダム環境調査検討委員会（第20回）議事概要

1. 日 時 令和3年3月25日 14:00～15:15
2. 場 所 八百津町ファミリーセンター2階 研修室1,2
3. 出席委員 自然科学研究所 理事長 西條 好迪 委員長
日本野鳥の会岐阜 顧問 大塚 之稔 委員
ぎふ哺乳動物研究会 梶浦 敬一 委員
名古屋女子大学 特任教授 駒田 格知 委員
自然学総合研究所 理事 野平 照雄 委員
中部大学 名誉教授 松尾 直規 委員
4. 議 事 (1) 環境保全に向けた取り組みについて
(2) ダム本体工事へ向けた対応について
5. 配布資料 議事次第
配席図
委員名簿
資料－1 委員会規約
資料－2－1 環境保全に向けた取り組みについて
資料－2－2 ダム本体工事へ向けた対応について
6. 主な審議結果等
 - (1) 環境保全へ向けた取り組みについて
 - ・環境レポート作成時に整理されている本体着工前のモニタリング調査の項目と内容を全て網羅するよう資料にまとめること。
 - ・付帯工事（建設発生土受入地等）の水質対策について、濁水処理後の水質を測定しておくが良い。
 - ・植物の移植にあたっては、1箇所まとめて移植するのではなく、数区画ごとに10個体程度を移植し、区画ごとの活着率から移植成否を判断する等、移植手順や移植場所の課題を検証できる方法で行うが良い。
 - (2) ダム本体工事へ向けた対応について
 - ・今後注目していく環境項目について説明を追加してもらいたい。それぞれのダム事業の特性に応じた環境項目を選定し、新丸山ダムとして注目するポイントを決めると、フォローアップに移行した際も評価の指標となる。
 - ・ダム湖の水位上昇に伴う支川の魚類への影響については、ダム完成前に旅足川における魚類の生息環境を把握しておき、必要に応じて対策を検討しておくが良い。
 - ・昆虫類については、ダム湖面が上昇することで水際に生息する種類が一時的な影響を受けると考えられるが、他ダムの事例では昆虫類は影響を受けない場所に移動して生息することが確認されており、自然の力に任せればよいと思う。
 - ・猛禽類の生活史のサイクル図は、一般的な時期を基に作成するのではなく当該地域に特化した時期

で整理しておくこと。

- 原石山横坑のコウモリに関する今後の対策について、生息環境の保全という視点ではなく、掘削にあたり横坑における利用状況の監視を行うことが重要である。

(以上)